

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

学校名	唐津市立小川小中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・項目別三者比較より、『学校教育目標の周知について』、保護者の達成率が71%と低い。保護者は育友会関係の行事や授業参観等への出席率は高く、学校への関心も高い。学校教育目標の周知のために情報発信を工夫していく必要がある。また、『家庭学習の充実』・『学校・部活・社会体育以外での運動の実践』についても、教師は指導を行っているものの、児童生徒・保護者ともに達成率が低い。どちらも、できていない一部の児童生徒いるためであるが、家庭と連携して『家庭での学習・運動』への意欲が高まる指導の取り組みが更に必要である。</p> <p>・項目別経年比較より、『一人一人を大切に学ぶ学級経営』『挨拶や礼儀』『学力・表現力の育成』『島を愛する心・学校行事や体験活動への参加』など、児童生徒の学習・学校生活に関することについては、全ての項目の平均点で高い水準を示している。この水準を維持できるよう、進化・改善した計画的・組織的な取り組みを実践していく。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>自立 貢献 ～ 未来へはばたく子どもたち ～</p>
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>(1) 児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな学級経営の実践 (2) 確かな学力の育成と進路保障 (3) 児童生徒の問題発見・解決能力を育成し、自分の意見を積極的に表現できる児童生徒の育成 (4) 島を愛し、島の文化を大切にすることの育成 (5) 業務内容の見直しを通し、やりがいと魅力のある職場環境の創造</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	○学力向上アクションプランの評価の平均が昨年度を上回った教師70%以上	・教職員間でアクションプランを共有するとともに、校内研修等により授業研究会等を行い、取組の促進を図る。
	○思考力・判断力・表現力の育成	○校内研究テーマに基づき、思考力・判断力・表現力を高める授業の研究に取り組んだ教師80%以上	・同じ校内研究テーマに基づいて小中がそれぞれに研究仮説を立てて研究を進め、授業の導入の研究やワークシート等の開発、個に応じた指導に取り組む。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳アンケートや人権集会などのアンケートに、自分の思いや考えを書いた児童生徒70%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや評価に関する校内研修等の実施
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答した教師70%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。
	○地域について学ぶ授業や地域との交流活動計画し、郷土愛を育てる。	○アンケートにより、小川島の良いところや課題について、70%以上の児童生徒が記述することができる。	・島ならではの行事や島の方々との交流活動等を年間計画に組み入れ、担当者を明確にしておく。 ・海岸清掃等の活動を通して、地域の課題について知り、その解決策等を考えさせる。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒85%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行
	○基本的な生活習慣の育成	○自分に適した生活リズム(睡眠を含む)を知り、快適な生活を送ることができるような習慣を養う児童生徒80%以上	・睡眠の大切さを知らせ、その「質」「量」を年間を通して身に付けさせる。 ・基本的な生活習慣の一つとしての快適な排便の重要性を知らせ、自らの健康を排便によって判断できるようにする。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務の優先順位設定の推奨 ・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定
	○長期休業中を中心に、年休の取得を促進	○夏季休業中に、5日以上年休を取得した教職員80%以上	・日ごろから年休が取得しやすいような職員室の雰囲気を作る。 ・長期休業中は、年休を5日以上取得するように声かけをする。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○効果的なICT活用教育の推進 ○テレビ会議システムを活用した交流の推進	・ICT機器を活用した授業やスピーチタイム等を週に15時間以上行う。 ・小学校では、テレビ会議システムを活用した他校との交流授業等を年間15回以上行う。	・電子黒板やタブレットPCを操作する機会を増やす。 ・他の離島と連携し、テレビ会議システムを活用した授業やスピーチタイムを実施する。
○児童生徒のキャリア観の育成	○キャリア教育における汎用的能力である問題発見・解決能力及び表現力の向上に努め、自らの意思をしっかりと伝えられる児童生徒を育成する。	○自ら設定した課題について、その考察や意見等を分かりやすく、伝えることができた児童生徒70%以上。	・スピーチタイムやスピーチ交流会をはじめ、全ての教科・学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせたり発表させたりする時間や場面を設ける。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上 ○特別支援学級(自・情)の生徒および担当教師への支援	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有 ・個別の指導計画の作成・実施・検証

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------